

ようこそ人間コミュニケーション学科へ！

人間コミュニケーション学科

H-1～H-3

人間コミュニケーション学科は、現代の高度コミュニケーション社会が抱える諸問題を、通信・ITなどの理工系技術の側面と、その運用やコンテンツなどの社会・文化的側面の両面から総合的に研究・教育する、新しいタイプの学科です。

コミュニケーションメディアやシステムの技術的な特性を踏まえながら、現代の情報化社会におけるコミュニケーションの形態・役割・機能・問題点をさまざまな観点から分析し、創造的に問題解決するための教育・研究を推進しています。

このオープンキャンパスでは、人間コミュニケーション学科の、文理にまたがる多彩で活発な研究・教育活動をわかりやすく紹介します。是非、西6号館（一部F棟）においでください。

☆研究室等公開：11月24日(土)13:00～16:30

(H-2は13:00～15:00、H-12は23日～25日の終日)

H-1 「学科相談コーナー&学科パネル展示」

場所：西6号館1階ロビー

人間コミュニケーション学科・人間コミュニケーション学専攻について知りたいあなた！まず西6号館の1階ロビーにいらしてください。教員と学生が待機しており、みなさんの質問にたいねいにお答えします。

ロビーには、たくさんある研究室がどのような研究・教育をしているかをまとめたパネルを展示しています。これを見ることで、社会、メディア、科学技術と、多くの領域にまたがる問題に取り組んでいる学科・専攻の姿について、具体的なイメージをもつことができるでしょう。

H-2 「ヒューマンメディア工房」

展示：西6号館4階401号室

発表会：西6号館2階201号室（15:00～16:30）

ヒューマンメディア工房は、人間コミュニケーション学科に設置された「ヒューマンメディア」に関する「ものづくり教育」の教育プログラムの総称です。

工房は、狭い意味でのメディアコンテンツ及びシステムにとどまらず、ヒューマンインタフェースやコンテンツ流通までを含んだ「ものづくり」を支援します。

工房では、コンテンツ部門・システム部門・企画部門で作品・制作物を募集し、調布祭オープンキャンパス時に発表会をおこないます。

また工房スタジオ（西6号館401）では、作品の展示もおこないます。

H-3 ☆研究室公開「感性的ヒューマンインタフェース」（梶本研究室）

場所：西3棟4階402号室

<http://www.kajimoto.hc.uec.ac.jp/>

額に装着した512点の電極による電気刺激で触覚を提示する体験展示を行います。カメラと組み合わせることで周りの環境を額で感じるというものです。電気刺激が必ずしも怖くないことを知ることになるでしょう。

他に、ストローで液体を吸う吸引感覚、刀でバツサリと切られる感覚など、これまで体験したことのない新しい感覚を体験できるデモを行います。

H-4 ☆研究室公開「快適なビジュアルコミュニケーションを支える技術」(高橋研究室)

場所：西6号館2階207号室

最近では、コンピュータグラフィックスや画像処理を施していない映画、CFを探るのが困難なほど、映像生成・処理技術が世の中に普及してきています。また、インターネット、携帯機器の発展にともない、膨大な映像リソースが世の中に氾濫するようになってきています。このような状況で、画像・映像を介したビジュアルコミュニケーションを通して快適な生活を支援するためのコンピュータグラフィックスや画像処理の技術の一端を皆さんに御紹介します。

H-5 ☆研究室公開「ことばのふしぎ」(奥浩昭研究室)

場所：F棟1階103室

次の質問に興味があり、時間に余裕のある方はお立ち寄りください。

・ Come in! / Please come in! / Enter! はどう違う？

関連すること：英語にも「やまとことば」と「漢字」がある！

また、英語の学習についての相談を申し受けます。

H-6 ☆研究室公開「マルチエージェントシステム：相互作用の謎に迫る」(高玉研究室)

場所：西6棟3階307, 309号室

<http://www.cas.hc.uec.ac.jp/>

計算機の中で知的なプログラムが複数動いていることを想像してみましょう。何かが起こりそうな気がしませんか？高玉研究室では、複数のプログラム(エージェントと呼びます)の相互作用から生まれる複雑な創発現象を研究しています。具体的には、(1)複数のエージェントが協力して問題を解決するマルチエージェントシステムや、(2)エージェントを一人の人間ととらえた社会シミュレーションに取り組んでいます。本研究室ではこのような複雑系の謎を解き明かす研究を紹介します。また、本研究室で取り組んでいる「電通大から人工衛星を打ち上げようプロジェクト」で開発した宇宙用ローバのデモも行います。

H-7 ☆「映像コンテンツのデザインと制作」(兼子研究室)

場所：西6棟4階402号室

<http://oz.hc.uec.ac.jp/>

兼子研究室では、映像を中心とするメディアコンテンツのデザイン、制作、システム構築と運用の研究をしています。とくに動画のインターネット配信を高度に利用したコンテンツや、3DCG、Web3Dを利用したコンテンツが顕著な研究例です。また、メディア理論にもとづいたコンテンツデザインの理論的研究もおこないます。

研究室公開では、最近の研究成果をデモンストレーションするとともに、CG制作や動画ストーリーミング制御などの体験学習をやっていただくことも考えています。

H-8 ☆研究室公開「新素材とコンピュータでつくるメディア・アート」(児玉研究室)

場所：西6棟4階401・405号室

アートの領域も、コンピュータや電子デバイス、新素材を取り入れ、さまざまな新しい可能性が拓けてきています。磁性流体を応用したインタラクティブアート、豊かな目の表情を自動的に作り出すCGキャラクター、携帯電話から画像を投稿することによって多人数が参加できるWebサイトのデザインなど、ダイナミックに変貌を遂げつつある研究の一端をご覧ください。

H-9 ☆研究室公開「ITの経済的・社会的インパクトの研究」(福田研究室)

場所：西6号館5階501号室および創立80周年記念館3階

<http://www.fukuda.hc.uec.ac.jp/>

IT(情報通信技術)は、現代のプロメテウスの火である。それははじめて一般の人びとに、自らの運命を切り拓く強大な力を与えた。しかし、それが災厄をもたらすか、あるいは幸せをもたらすかは、我々一人ひとりの透徹した理性と主体的で勇氣ある行動にかかっている。当研究室では、ITのインパクトをトータルに把握するための射程の大きな理論構築(基礎社会情報学)に関わる一方で、理論のアクチュアリティを検証するために、生活世界(ないしコミュニティ)の情報化にも実践的に取り組んでいる。

西6号館5階501号室では研究ないし研究活動概要のポスター展示および質疑応答、創立80周年記念館3階では公開研究会開催の予定です。

H-10 ☆研究室公開「認知科学を背景としたコミュニケーションメディアの分析」(坂本真樹研究室)

場所：西6号館5階505号室(501室を右側)

人間の知のメカニズムを探求する認知科学の枠組みで、視点の投影・推移、知識形成・イメージ形成、異なる知識・感覚領域の写像といった多様な人間の認知プロセスとの関連で、様々なメディアの分析を行っています。対象は、広告メディア(TV広告やWEB広告)や言語が中心になります。研究室公開では、広告効果測定法の一部を紹介するとともに言語を対象とした分析例を紹介します。

H-11 ☆研究室公開「10年後のケータイ社会を支える技術を創る」(中嶋研究室)

場所：西6棟6階601号室

未来のウェアラブル機器を使用した携帯電話サービスや、より臨場感の高いヒューマンコミュニケーションの研究をしています。また、自分の居場所をもとにしたガイドや最寄の店舗情報が得られるヒューマンナビゲーションを実現すべく、屋内の位置検出技術を開発しています。介護施設への適用が最初の応用例です。無線技術としては、小型アンテナ、低コストな小規模無線ネットワーク、光と電波の融合などに取り組んでいます。

H-12 ☆研究室公開「セキュリティの研究」(吉浦研究室)

場所：西6棟6階601号室(23日~25日まで終日公開)

太古の昔から人間が望み続けてきた「安全と安心」について、情報ネットワークの観点から研究しています。この研究をしていると、危険予知能力が高まるという話もあります。今回は、修士や学部4年生の研究内容を紹介します。